平成30年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	社会心理学(Social Psycology)			授業コード	E035251
担当教員名	山本 義史			科目ナンバリングコード	E31003
配当学年	3	開講期	後期		
必修・選択区分	選択	単位数	2		
履修上の注意または履修条件					
受講心得	遅刻、講義中の携帯電話の使用、おしゃべり、無断外室など、他の学生に迷惑のかかる行為は禁止です。大学生として最低限のマナーは守って履修してください。				
教科書	なし。				
参考文献及び指定図書	社会心理学への招待 白樫三四郎(編著) ミネルヴァ書房 社会心理学—個人と集団の理解 吉田俊和・松原敏浩(編著) ナカニシヤ出版				
関連科目	コミュニケーション演習、発達心理学、臨床心理学				

授業の目的	本講義を通して、「こころの力」「社会人基礎力」「職業能力」「専門能力」の4つの力が結集した「人間力」を育成をベースに、社会貢献や地域の活性化・福祉に必要な実践的な知識・技術を習得します。特に、専門的力量の育成として社会の中での人間を考えていきます。人間は「社会」で生活し、さまざまな人と関わっています。社会心理学はこのような人間のすべての行動を対象にしています。例えば、他者がいるから‘自己’を意識し、その意識の強さや性質は個人によって異なります。また、2者関係から家族、仲間、クラブ、学校、会社(組織)、地域などでの人々の考え方、行動の仕方の違い、集団の特性など、私たちは他者がいる環境で日常的に多くの現象と出会い、対応しています。現代社会では、人間行動は多様化しており、個人の社会的行動だけでなく、集団や地域としての人間行動に関する知識と対処能力、基礎的な知識を応用して柔軟に対応することができる態度と技術の習得が求められます。ビジネス場面を例にあげると、さまざまな相手との交渉、かけひき、集団内・集団間での立場の認識が必要になります。本講義では、このような個人、集団、地域における人間の社会的行動を学習していきます。
授業の概要	講義に心理学実験を取り入れたものです。毎回ワークノートを用意します。それに記入しながらパワーポイントでの解説行っていきます。授業終了時に課題が出ますから、毎回ショートレポートを書いて提出します。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第 1 週 : 社会心理学とは何か 講義の進め方を説明し、社会心理学とはどのような領域を扱っているのかを話します。	「社会心理学への招待」の閲覧予習とワークノートの復習後「社会心理学の目的(抽象的)およびその研究領域、日常生活や今までの経験の中で当てはまりそうなこと. それらに興味を持った理由について」レポートの提出(2h.・2h)
第 2 週 : 自己 自己とは何か、そして自己概念や自己評価がどのように形成され、それが対人関係におよぼす影響を考えていきます。	「社会心理学への招待」の閲覧予習とワークノートの復習後「自己を社会とのかかわりにおけるあなたに当てはまりそうな具体例について」レポートの提出(2h.・2h)
第 3 週 : 社会的認知	

人は他者や事象をどのように捉えていくのでしょうか。そこにかかわる人間の能力と思考の問題についてお話していきます。	「社会心理学への招待」の閲覧予習とワークノートの復習後「社会的認知や社会的推論で過去あなたが実際行いがちであったものについて」レポートの提出(2h.・2h)
第 4 週 : 態度 人の行動形成に影響を与える態度について、持続・変化などの側面を概説します。そこから人を動かす心理やセールスなどのテクニックといった身近な話題を考えてみましょう。	「社会心理学への招待」の閲覧予習とワークノートの復習後「態度変容や説得的コミュニケーションのテクニックや認知的不協和理論のあなた自身の経験例について」レポートの提出(2h.・2h)
第 5 週 : 対人魅力 なぜ人は他者を好きになるのでしょう？ここでは好意が形成される原理について考えてみたいと思います。	「社会心理学への招待」の閲覧予習とワークノートの復習後「あなたはどのような人に魅力を感じ、好意をもつか。それについて、今日学んだ社会心理学的理論は適合するかについて」レポートの提出(2h.・2h)

第 6 週 ： 対人コミュニケーション 私たちの生活でコミュニケーションは欠かせないものですが、その構造や種類、さらにはメディアの問題などを考えていきます。	「社会心理学への招待」の閲覧予習とワークノートの復習後「対人コミュニケーション上喜ばしかったことや楽しかったこと、逆に困ったことや問題や障害などの経験を思い出して、今日学んだことと関係することがあれば考えるところについて」レポートの提出(2h.・2h)
第 7 週 ： 社会的影響（1） 人の行動形成に影響を与えるものとして、他者などの存在があげられます。私たちがどのようにして他者から影響を受けるのか、またどのようにして他者に影響を与えることができるのか、そしてその効果などについてお話していきます。	「社会心理学への招待」の閲覧予習とワークノートの復習後「社会的影響のうち、主に同調について自分の経験から、当てはまる事例を考えて」レポートの提出(2h.・2h)
第 8 週 ： 社会的影響（2） 人の行動形成に影響を与えるものとして、他者などの存在があげられます。私たちがどのようにして他者から影響を受けるのか、またどのようにして他者に影響を与えることができるのか、そしてその効果などについてお話していきます。	「社会心理学への招待」の閲覧予習とワークノートの復習後「服従や社会的促進、社会的抑制、社会的手抜き、傍観者効果について自分の経験から、当てはまる事例を考えて」レポートの提出(2h.・2h)
第 9 週 ： 人を助ける行動と人を傷つける行動 私たちの行動のなかには人を助けるものと人を傷つけるものがあります。それぞれの行動形成と社会的影響について考えていきます。	「社会心理学への招待」の閲覧予習とワークノートの復習後「援助行動,ソーシャル・サポート、対人的葛藤や攻撃行動のうちのどれかをあげて、現在の自分の状況について分析・考察する」レポートの提出(2h.・2h)
第10週： 集団過程 私たちが所属する集団には様々な大きさ、かたち、役割などがあります。それらがどのように形成され機能していくのか概説していきます。	「社会心理学への招待」の閲覧予習とワークノートの復習後「現在または将来において、集団過程にかかわる場合、どのような点に注意しようと思ったかについて」レポートの提出(2h.・2h)
第11週： パーソナリティと役割 人のもつ性格について、人格心理とは違った立場から捉えていきます。	「社会心理学への招待」の閲覧予習とワークノートの復習後「自己モニタリング尺度の結果を自己分析して自分の自己呈示の仕方や自己表現の特徴について」レポートの提出(2h.・2h)
第12週： 環境	

私たちの生活する空間と、それが人に与える影響について考えていきます。	「社会心理学への招待」の閲覧予習とワークノートの復習後「あなたの社会空間的行動または環境ストレスを振り返って、「あれはこういうことだったのだ」と思うことについて」レポートの提出(2h.・2h)
第13週： 世論 成人となった学生には選挙権があります。自分の行動が直接世論にも影響を与えていきます。その効果と投票行動に与える要素についてお話します。	「社会心理学への招待」の閲覧予習とワークノートの復習後「世論において、あなたが過去に経験した事例に当たるものについて具体的に考察する」レポートの提出(2h.・2h)
第14週： 文化 人間の行動は、その社会の文化的要因とは不可分である。人間は、ある社会に生まれて、そこの社会の文化を摂取し言語や価値観や行動様式を学習していくという視点から人間を考えます。	「社会心理学への招待」の閲覧予習とワークノートの復習後「文化や地球環境問題について、本日の学習も交えて、あなたが現在考えていることについて」レポートの提出(2h.・2h)
第15週： 群衆・流言 群集と集団はどこが違うのでしょうか。また、デマや噂など人の心を惑わす言語的要素についてお話していきます。	「社会心理学への招待」の閲覧予習とワークノートの復習後「群集行動や流言に巻き込まれてしまった経験をもとに本日の学習との関連で、今後の対応について」レポートの提出(2h.・2h)
第16週： 期末試験 授業中に学んだ内容を特に知識や理解の観点から確認する試験です。	

授業の運営方法	(1)授業の形式	「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目	該当しない	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	人間の相互作用と社会行動に関心をもち、自分の行動にひきつけて考えるようになります。
【知識・理解】	個人と社会の関係が考えられるようになります。社会心理学の知識を得て、日常生活に応用してみるようになります。
【技能・表現・コミュニケーション】	日頃の相互作用や社会生活に使えるようになります。
【思考・判断・創造】	学習した知識と思考・判断・創造性で、賢い社会生活が送れるようになります。

○成績評価基準（合計100点）			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等（テスト）	レポート・作品等（提出物）	発表・その他（無形成果）	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		60点		
【知識・理解】 ※「専門能力〈知識の獲得〉」を含む。	40点			
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力〈知識の活用〉」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。				
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。				

（「人間力」について）

※以上の観点に、「こころの力」（自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力）と「職業能力」（職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力）を加えた能力が「人間力」です。

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等（提出物）	課題のショートレポートの論点・内容は、毎回の与えられた課題に応じて、授業中に学んだ心理学的成果や一般論を考察し、自分や身の回りの社会に引き寄せて論じていれば、4点/1回（×15回＝60点）となります。前回の提出成果については，授業前に全体的に概要をフィードバックします。評価方法は以下の通りです。 A（4点） 講義の内容をよく理解し、強い関心をもって自分の考えをしっかりと述べることができている。 B（3点） 講義の内容をよく理解し、振り返ることができている。 C（2点） 講義の内容をだいたい理解し、振り返ることができている。 D（1点） 講義の内容を一部理解し、振り返ることができている。
発表・その他（無形成果）	